

いま、中学生が 訴えたいこと

青少年の非行の芽をつみ、心豊かでたくましい青少年を育てるためには、何よりも健全な家庭環境が大切です。非行防止と青少年健全育成町民大会(台風のため中止)で発表予定でした「いま、中学生が訴えたいこと」をテーマにした中学生の意見・発表を紹介します。(敬称略)

☎メモリー とんがったスタイル 文化センター ☎0562-83-9567



「言葉」の力

北部中学校 3 年生
山崎 翔太

みなさんは、普段何気なく使っている言葉について、どれくらい意識したことがありますか。

私は最近、言葉の持つ力について改めて考えさせられる出来事がありました。

ある日、友人が別の人と口論になっていました。最初はよくある言い合いだと思っただけでしたが、だんだんと感情的になり、相手の口からある言葉が出てきました。それは、人の肌の色に関する差別的な意味を持つ言葉でした。

その瞬間、私はとても驚きました。そして、その言葉の意味を本当に理解した上で使っているのか気になり、相手に尋ねてみました。しかし返ってきた答えは、「よく分からない」というものでした。

そこで私は、その言葉がどのような意味を持ち、これまでどのような歴史の中で人を傷つけてきたのかを説明しました。すると相手は、自分が発した言葉の重さに気づき、友人に謝ってその場を離れていきました。

この出来事を通して私が強く感じたことがあります。それは、「私たちは言葉を本当に理解して使っているだろうか」ということです。

今はSNSなどを通して多くの言葉に触れられる時代です。しかし、その意味を十分に理解しないまま使われる言葉も少なくありません。

特に心配なのは、人を傷つける言葉です。それは差別的な言葉だけではなく、「死ね」や「消えろ」といった暴言も、時々耳にすることがあります。冗談のつもりや、その場の感情で使われることもあります。その言葉を受け取った人がどのような気持ちになるのかを考えたことはあるでしょうか。

人を傷つける言葉は、言われた人を苦しめるだけでなく、言った側にも後悔を残します。感情に任せただけ一言が、人との関係を壊してしまうこともあります。

だからこそ、私たちは言葉大切にしなければならぬと思います。誰でも感

情的になることはあります。しかし、そんな時こそ一度立ち止まって考えることが大切です。

「この言葉を言われたら、自分はどう感じるだろう。」その一瞬の考えが、自分の言葉を変えるきっかけになるはずです。

ここで、みなさんに一つお願いがあります。

これまで自分が使ってきた言葉や、友達との会話を少し振り返ってみてください。意味をよく知らずに使った言葉や、誰かを傷つけてしまった経験があるかもしれません。逆に、自分が誰かの言葉によって傷ついた経験思い出す人もいるでしょう。

そのような経験を思い出したなら、それは決して無駄なことではありません。自分の言葉を振り返り、相手の気持ちを考えることは、自分自身の成長につながるからです。

私たちは毎日、たくさんの言葉を使って生活しています。家族との会話、友達との会話、先生との会話。

言葉は人と人をつなぐ大切な道具です。

しかし、その便利な道具は使い方を間違えると、人を深く傷つけてしまうこともあります。

だからこそ、言葉には責任が伴います。一つ一つの言葉には意味があります。

そして、その意味を理解し、相手のことを考えながら使うことが大切です。私は今回の経験をを通して、言葉の重みを改めて実感しました。

みなさんもぜひ、自分が普段使っている言葉について考えてみてください。そして、人を傷つける言葉ではなく、人を励まし、勇気づける言葉を増やしていってほしいと思います。

言葉を大切にできる人こそ、本当の意味で人を大切にできる人なのではないでしょうか。



自分らしくいられる場所

東浦中学校3年生

田中 みのり

を過ごしている。しかし、学校生活の中で私たちが成長できる場所は教室だけではない。部活動もまた、中学生にとって「自分らしくいられる居場所」の一つだと私は思う。

最近、学校では部活動の縮小が進んでいる。活動できる日数が減ったり、休日を家族と過ごす時間にしたりなど、休日の活動を制限する学校も増えてきた。そういった先生方の負担を減らすことは大切だし、時代の変化に合わせて学校も変わっていかねければならないと思う。しかし、その話を聞くたびに私は寂しさを感じている。なぜなら部活動はただ技術を磨くための場所ではなく、中学生にとって大切な「居場所」だからだ。

学校の中に「自分らしくいられる場所」はあるだろうか、と考えたとき、その場所の一つが部活動だと私は思う。中学生になると、学校で過ごす時間は1日の大半を占めるようになる。授業を受け、友達と話し、行事に参加をしながら毎日

は、私にとって特別なものだ。もちろん練習で上手にいかず悔しい思いをしたことも、仲間と意見がぶつかったこともある。私自身、コンクール前に仲間と意見が合わず、部活に行きたくないと思ったこともあった。しかし、それでも同じ目標に向かって努力する時間の中で、少しずつお互いの距離が縮まり理解し合えるようになった。周りの目を気にしすぎず、過ごせる時間があるからこそ、部活動を自分らしくいられる「居場所」だと私は感じている。

中学生は身体だけではなく、心も大きく変化する時期だと思う。勉強のこと、友達関係のこと、将来への不安などいろいろな悩みを抱えながら毎日を過ごしている人も多い。自分が「頑張らなければいけない」と思う場面も多いだろう。だからこそ、安心して過ごせる「居場所」が必要なのではないだろうか。もちろん、家族や友達の存在も大きいと思う。しかし、学校生活の中で自分の役割を感じた

り、自信をもてたりする場所として、部活動はとても大切な存在だと思う。

また、部活動には学年の壁を超えたつながりがある。先輩から教わったり、後輩に声をかけたりする中で、人との関わり方も学ぶことができる。時には厳しい言葉をかけられたり、言いたくないことを言わなければならないときもあるだろうが、それ以上に励まされたり、支えられたりした経験は心の中に残る。一つの目標に向かって努力した時間は、大人になってもきっと忘れないだろう。これこそが「青春」なのではないかと私は感じている。「青春」という言葉を聞くと、楽しいことばかりを想像する人もいるかもしれない。しかし、実際には悩んだり意見が衝突したり、時には涙を流したりすることもある。それでも仲間と一緒に乗り越えた経験は、後から振り返ると大切な思い出になる。しかし、もし部活動がどんどん縮小されてしまえばそうした経験ができる機会も減ってしまう。私は「効率」だけで大事なものを失ってはいけなさと感じる。数字では表せない思い出や人とのつながり、自分らしく笑える時間は、私たち中学生にとってかけがえのないものだからだ。

部活動は単なる学校の活動ではなく、私たちの心を支える大切な場所だと私は思っている。そこには、仲間と笑い合った時間や、本気で努力した思い出、自分の成長を感じられた瞬間がある。そして、何より「ここにいてもいい」と思える。自分らしくいられる「居場所」がある。部活動の縮小が進む今だからこそ、私たちはその価値をもう一度考える必要があるのではないだろうか。学校生活は、勉強だけでできているわけではない。仲間と過ごした時間や、一つのことに夢中になった経験もまた私たちを成長させてくれる。だから、私はこれからも多くの中学生にとって「自分らしくいられる場所」が守られていくことを願う。



命を預かる責任

西部中学校2年生
中川 莉心

私の家には、私が生まれた時から一緒に暮らす大型犬がいます。毎日一緒に遊んだり、散歩に行ったり、時にはいたずらをして母に二人で怒られたこともありましたが、うちの子は、ただのペットではなく大切な家族です。私が悲しんでいるときは、そっとそばにいてくれて、うれしいときには一緒に喜んでくれます。私にとっけかけがえのない存

在なのです。散歩に出かけると、うちの子のように家族として大切にされているいろいろな犬たちと出会えます。みんな飼い主を信頼して幸せそうに見えます。しかし、私はそうでない犬や猫がこの世にたくさん存在していることも知っています。

ペットショップに行くと、たくさん犬や猫が売られています。かわいいその姿を見ると『飼いたい』と衝動的に買うことを決めてしまう人がいるかもしれません。けれど、かわいいという気持ちだけで動物を飼うことには疑問を感じます。

犬を飼うことは、想像以上に大変です。毎日のご飯や飲み水の用意、散歩、スキップタイム、トイレの片づけ、体調管理なども飼い主の仕事です。体調に異変があれば病院に連れて行く必要があります。病気になれば治療に通うことになり、手間だけではなく、お金もかかります。愛情をもって接するということは、さまざまな日常の義

務が伴うということなのだと思います。

しかし中には、「思ったより世話が大変」「引越して飼えなくなった」「こんなに大きくなるとは思わなかった。かわいくない」といいう身勝手な理由で犬を捨ててしまう人がいるそうです。私はそんな話を聞くと、胸が痛くなり、捨てられる犬たちに何もできない自分の無力さを思い知らされます。

犬は自分が捨てられる理由を知ることができません。今まで信じていた飼い主と突然離れるのです。もし自分が家族から捨てられたら、どんなに不安で悲しいでしょう。犬だって同じです。不安で悲しいのです。

捨てられた犬の中には、殺処分される犬もいます。せっかくこの世に生まれてきて、なぜそんな悲しい目に合わなくてはならないのでしょうか。運よく殺処分されなくても、すべての犬が新しい飼い主を見つけれないわけはありません。私は捨てられた犬たちを取

り巻く厳しい現実を知って中学生に何ができるか考えました。そして、もっと多くの人にこの問題を知ってほしいと思いました。

犬を飼いたいと思ったから、まず保護施設に目を向けてほしいと思います。保護施設には新しい家族を待っている多くの犬たちがいます。もちろん、どこから迎えるとしても、一番大切なのは最後まで責任と愛情をもって世話をすることです。かわいとか小さいとかそんな理由だけで飼うのではなく、一つの命を預かるという自覚を持つてほしいのです。

ネットやテレビで捨てられたり、多く飼えずでとうしようもなくなったりした、犬や猫についての動画や番組を目にします。そのとき、「かわいそうだな」と他人ごとにするのではなく、自分には何ができるだろうかと考えたり、家族や友達とどうしたらいいのかを話し合い、命の大切さや責任について話し合ったり

することが必要です。

そのような機会をもつことで、命を預かることについて考える人が増えていけば、安易に動物を飼う人が減ってくれるのではないかと思います。一人の力は小さくても、同じ気持ちを持つ人が増えれば、不幸な動物たちを取り巻く環境が少しでも変わっていくのではないかと思います。実際に保護施設から犬や猫を引き取る人が増えていたり、犬や猫の殺処分ゼロを目指して、行政が取り組んでいる自治体が増えてきたりしています。

動物も人間と同じように気持ちがあります。言葉は話せなくても、飼い主と一緒に喜んだり悲しんだり、不安や寂しさも感じています。だからこそ、人間の都合で捨ててしまうことは、絶対に許されません。最後の時まで責任をもって大切にすることが「動物を飼うためのパスポート」と私は訴えます。